

美しく孤高のハンター Wild cats of the world

世界の野生猫

2016

ライオン、ヒョウ、カラカル、サーバル、マヌルネコ、
オセロット、スナドリネコ、ボブキャット、ユキヒョウなど

過酷な自然界を強くたくましく生きる!!
迫力満点のネコ科動物30種を紹介



こちらを警戒している様子。広い草原で獲物を探しているようだ。

漠、丘陵地など、比較的乾燥した開けた土地にすんでいる。このような環境で生息していることもあり、水を長期間飲まなくても生きていられるとされ、その場合は水分を獲物の体液から得ている。

基本的には夜行性だが、昼間行動することも多い。行動範囲が非常に広く、調査された個体のなかには東京二三区よりも広い八二〇平方^キに達するものもいた。

基本的には群れをつくらず単独行動をするが、繁殖期にはメスとオスが一緒にいる。九〜二月に繁殖し、約九週間の妊娠期間を経て、体重二〇〇〜二五〇^{グラム}の幼獣を一〜六頭生む。その後、キツネやツチブタが捨てた巣穴などを利用して、子育てを行う。



カラカルの赤ちゃん。体は小さくても特徴である耳の房毛ははっきり分かる。

Map 分布図



サハラ砂漠以外のアフリカ、中東、南西アジアに分布している。

カラカルの飼育 🐾

カラカルは非常に大型のネコ科動物だが、人になれる。イランやインド北西部では飼いならして、狩りに使われている。個体数は減少傾向にあるが、商取引が禁止されているわけではない。日本では、動物愛護管理法によって特定動物に指定されており、都道府県知事の許可がなければ飼うことができない。



動物園のカラカル。岩の上で一休みしている。

幼獣は約一〇週間で乳離れし、一年ほどで性成熟する。飼育環境下では一六歳まで生き、個体もいるが、自然環境での寿命はよく分かっていない。主に小型の動物や鳥を捕食するが、まれに自分よりも大きな獲物を狙うことがある。獲物を襲うときは五メートル以内まで近付き、そこから全力疾走で追い、ノドを噛んで仕留める。また、鳥を襲う場合は、三メートルの跳躍をするという。家畜を襲うことがあるカラカルは、アフリカ南部の国では駆除の対象になっている。その一方で、北アフリカや中東、南西アジア、中央アジアの各国では保護されている。しかし、分布域の砂漠化と耕作地の拡大によって、生息地を狭めつつある。

Zoo Information

- 大内山動物園(三重県度会郡)
- 東山動物園(愛知県名古屋市)
- 姫路市立動物園(兵庫県姫路市)
- 福山市立動物園(広島県福山市)

ここで
会える!!

【上左】毛づくろいをする様子はまさにネコを
思わせる。【上右】緑の瞳が美しいカラカル。
【下】顔は小さくてかわいらしいが、体は大き
く追力満点だ。





中央アジアにすむ最も古いネコ科動物

マヌルネコ

Pallas's cat



中央アジアなどの極寒の気候に適応する毛皮をもつマヌルネコ。

Data



和名:マヌルネコ(まぬる猫)
またはモウコヤマネコ
(蒙古山猫)

英名: Pallas's catまたは
Manul

学名: *Felis manul*または
Otocolobus manul

分類: ネコ科マヌルネコ属

体長: 体長50~65cm、
尾長20~30cm

体重: 2.5~5kg

マヌルネコは、イエネコの標準的な体格とほぼ同等の大きさのネコ科動物である。シベリア南部、アフガニスタンなどの中央アジア、チベットなど樹木の少ないステップ地帯や岩場を好むほか、平地から標高三〇〇〇~四〇〇〇メートルの高地にもすんでいる。また亜種は、ネパール、イラン、カザフスタン、トルクメニスタンなどに生息している。

身体的な特徴は、少しユーモラスなずんぐりとした体形と、濃密な毛皮。寒冷地に適したため体毛が密に生えており、よりいっそう太って見える。この厚い体毛のおかげで、雪の上や凍った地面の上に腹ばいになっても体を冷やさずに済むのだ。

そして尾は太く、五〜六本



【上】ずんぐりとした体型でも、木の上を器用に歩く。【左】動物園のマヌルネコ。木の上からこちらを睨みつけて、威嚇している様子。

マヌルネコのごはん

かわいらしい顔をしているマヌルネコだが、もちろんハンターだ。ウサギ(右写真)、ネズミ、リス、小鳥などを待ち伏せや尾行で捕らえることが多い。



のリング状のしま模様がある。目が高く、耳が低い位置にあるというユニークで愛らしい顔立ちは、ネコ好きにはたまらないかわいらしさだ。

しかし、かつては中国やモンゴル、アフガニスタンなど、生息域周辺の国々で毛皮を目的とした狩猟の対象となっていた。これに生息地の開発なども相まって個体数が減少し、現在は国際自然保護連合(UCN)から準絶滅危惧種に指定されている。

分類上はマヌルネコ一種で、マヌルネコ属を構成するが、イエネコが含まれるネコ属やベンガルヤマネコ属に含まれるとする説もある。

夜行性で、繁殖期以外は単独で行動し、昼間は、岩陰、岩穴、マーマットが掘った穴な



目を大きく見開いて、真上を見上げるマヌルネコ。獲物でも見つけたようだ。

どに潜んでいる。足が遅いため、狩りの仕方は待ち伏せや尾行が多い。目の位置が高い理由としては、身体を岩陰などに潜めたまま目で獲物を探す、あるいは追跡の際に有利であるためだといわれている。主に捕食するのはネズミやナキウサギで、トガリネズミやユキウサギ、小鳥なども食べている。ユキウサギは体長四五〜六五^{センチ}（体重最大四〇^{グラム}）弱）あるので、マヌルネコの獲物としてはかなりの大物だ。ほかのネコ科動物と違うのは、瞳孔が収縮しても縦長にならずに、明るい場所でも瞳は丸いままという点。風貌がベルシヤネコに若干似ていることから、祖先または原種とされたことがあるが、現在では否定されている。



【上】マヌルネコの毛は季節とともに生え変わる。
【左】おすわりして、こちらをじっと見つめる様子。



Zoo Information

- 埼玉県こども動物自然公園
(埼玉県東松山市)
- 上野動物園(東京都台東区)
- 東山動物園(愛知県名古屋)
- 王子動物園(兵庫県神戸市)

ここで
会える!!

繁殖が難しいマヌルネコ 🐾

マヌルネコは免疫力が低く感染症に弱い
ため、飼育下での繁殖は難しいとさ
れているが、上野動物園では繁殖に成
功している。飼育下では4~5月にか
けて1~5頭を出産するが、野生の出産・
子育てについてはよく分かっていない。



岩の間からこちらを見つめるかわいらしいマヌルネコの赤ちゃん。(※)

Map 分布図



シベリア南部、アフガニスタン
などの中央アジア、チベット
などに分布している。

※写真は、上野動物園のマヌルネコではありません。他施設で飼育されている様子です。

美しき孤高のハンター Wild cats of the world

世界の野生猫 2016

2016年7月15日 version1.0発行

ISBN978-4-902896-21-3

著作 株式会社 エディング
編集 多田あゆみ・梶間伴果・武井誠
デザイン 多田あゆみ
写真 Shutterstock・環境省西表野生生物保護センター

発行人 武井誠

発行 株式会社 エディング
〒162-0811 東京都新宿区水道町2-14 柴木ビル2F

【お問い合わせ】 eding@eding.co.jp

©Eding Corporation 2016

本書の無断転載、複製、頒布、公衆送信、翻訳、翻案等を禁じます。

一部または全部をアナログ化することは、個人や家庭内の利用でも著作権法により認められておりません。

エディングの書籍についての新刊情報・詳細情報は、以下をご覧ください。

<http://www.eding.co.jp/>